

富山県感染症発生動向速報

(2026 年第 37 週分・9 月 7 日～9 月 13 日)

■今週の主な動向

※2026 年第 38 週分は 9 月 25 日（金）発行予定です。

○インフルエンザの患者報告数は増加が続いています。

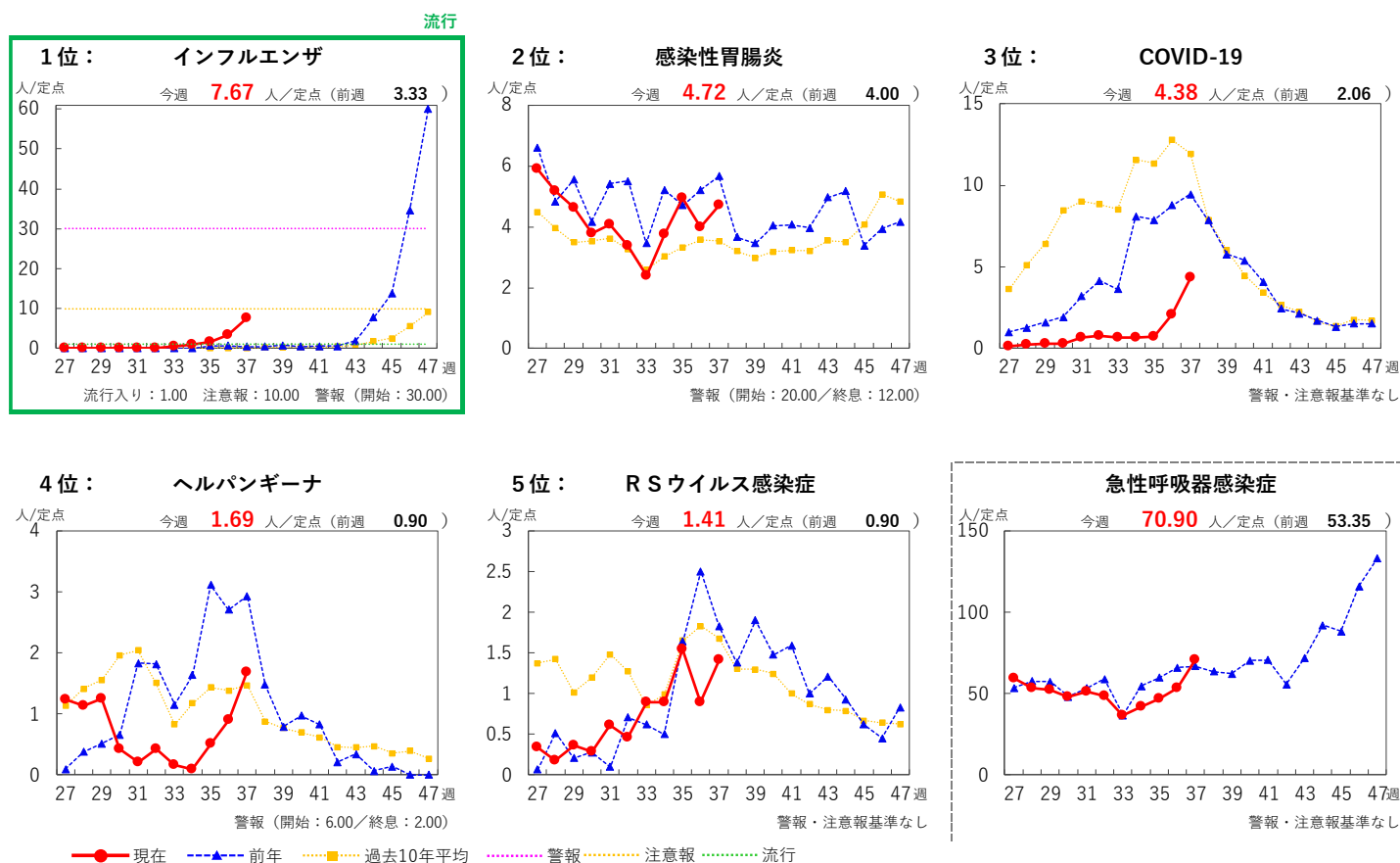
県内の患者報告数は 7.67 人/定点となり、先週（3.33 人/定点）から増加しました。特に 5～14 歳、40～50 歳代で大きく増加しました。手洗いや咳エチケット、換気などの基本的な感染対策を心がけましょう。（[インフルエンザの疫学所見](#)、[第 35 週インフォメーション](#)参照）

○新型コロナウイルス感染症の患者報告数は増加が続いています。

県内の患者報告数は 4.38 人/定点となり、先週（2.06 人/定点）から増加しました。特に 15 歳未満、30～40 歳代で大きく増加しました。インフルエンザ同様、基本的な感染対策を心がけましょう。（[新型コロナウイルス感染症の疫学所見](#)参照）

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症（第 37 週・9/7～9/13）

厚生センター（保健所）管内別、直近の推移：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#a-6>

■全数報告の感染症

二類感染症 結核 1 件（80 歳代、男性）

三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 件（10 歳未満、男性、O26、VT1）

四類感染症 レジオネラ症 1 件（40 歳代、男性、肺炎型）

五類感染症 急性脳炎 1 件（10 歳未満、男性）

水痘（入院例） 1 件（10 歳代、女性）



富山県感染症情報センター（富山県衛生研究所内）

TEL：0766-56-5431（直通） HP：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/>



レジオネラ症にご注意！ お風呂・加湿器は清潔に

《 インフォメーション 》

●レジオネラ症

レジオネラ症は、河川、湖水、温泉、土壌などに広く分布しているレジオネラ属菌を原因とする感染症です。近年、全国では年間 2,000～2,500 例程度の患者が報告されており、届出数は 7 月を中心に多く、季節変動がみられます。

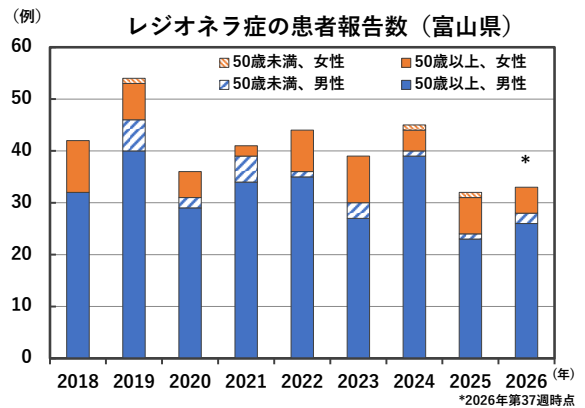
レジオネラ症患者の病型は、レジオネラ肺炎とポンティアック熱に大別され、レジオネラ肺炎が大半を占めます。レジオネラ肺炎では、通常 2～10 日の潜伏期間を経て、全身倦怠感、頭痛、食欲不振、筋肉痛などの症状がみられ、その後、咳、38℃以上の高熱、悪寒、呼吸困難などを呈します。また、下痢や意識障害を伴うこともあります。ポンティアック熱では、突然の発熱、悪寒、筋肉痛などがみられますが、一般に自然軽快します。

県内の過去 5 年間の患者報告数は年間 32～45 例で推移しており、2026 年は第 37 週（9 月 7 日～9 月 13 日）時点で既に昨年 1 年間の報告数（32 例）を超える 33 例が報告されています。患者は 50 歳以上の男性に多く、全体の 7～8 割を占めています（図・青色）。また、少数ながら女性の報告もみられ、その多くはこちらも 50 歳以上です（図・橙色）。

レジオネラ属菌は 20～45℃程度の水中で増殖しやすく、衛生管理が不十分な公衆浴場、循環式浴槽、加湿器、空調設備の冷却塔などで増殖します。これらの設備から発生するエアロゾルを吸入することで感染しますが、通常、ヒトからヒトへの感染はありません。

これまでに水環境の不十分な衛生管理を原因とする集団感染事例が数多く報告されています。2023 年には、宮城県の医療機関や大阪府の一部地域で集団感染・集積事例が報告され、いずれも空調設備の冷却塔が原因とされています（IASR 2024;45(7):114-116, 112-114）。また、2024 年 9 月には東京都内で、超音波式蒸気発生機能を有するインテリア用品を原因とする集団感染事例が報告されています（IASR 2025;46(3):68-69）。家庭では、追い焚き機能付き風呂や 24 時間風呂の配管、加湿器のタンクなどに付着した「ぬめり」でレジオネラ属菌が増殖しやすいため、取扱説明書に従って定期的に洗浄・換水を行うなど、適切な衛生管理が重要です。また、災害後の復旧作業において、レジオネラ属菌を含む粉塵等を吸入することで感染する場合もあるため、清掃やがれき除去等の作業時には注意が必要です（第 36 週インフォメーション参照）。

レジオネラ肺炎は重症化することがあり、治療開始が遅れると死亡に至る場合があります。発熱、咳、呼吸困難などを呈する肺炎患者、特に高齢者や基礎疾患を有する患者ではレジオネラ症を鑑別に含め、尿中抗原検査等による早期診断と、適切な抗菌薬（キノロン系薬、マクロライド系薬）による治療を行うことが重要です。



○感染症発生動向調査報告状況（2026年第37週 2026年9月7日～2026年9月13日）

分類		疾患	今週報告分（第37週）					累積報告数（2026年第1週（2025年12月29日）～）						
			新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
全数把握	二類感染症	結核					1	1	5	3	18	9	38	73
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く					1	1	5	1	7	6	23	42
	三類感染症	細菌性赤痢											1	1
		腸管出血性大腸菌感染症					1	1	3	1	7	2	9	22
	四類感染症	E型肝炎							1		1		1	3
		デング熱											1	1
		マラリア											2	2
		レジオネラ症				1		1	1	2	9	4	17	33
	五類感染症	急性脳炎					1	1	2				4	6
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症									3	1	6	10
		後天性免疫不全症候群（H I V感染症を含む）											1	1
		侵襲性インフルエンザ菌感染症									2		5	7
		侵襲性髄膜炎菌感染症										1		1
		侵襲性肺炎球菌感染症							3		7	2	5	17
		水痘（入院例）					1	1	1	2	2		4	9
		多剤耐性緑膿菌感染症											1	1
		梅毒							5	2	9	1	15	32
		破傷風											1	1
		百日咳							1				7	8
		麻しん									4		4	8
急性呼吸器感染症（ARI）定点（48定点）	急性呼吸器感染症（※1）	234 33.43	250 50.00	1,244 95.69	304 43.43	1,371 85.69	3,403 70.90	10,399	9,558	36,936	10,236	46,111	113,240	
	インフルエンザ	28 4.00	9 1.80	142 10.92	28 4.00	161 10.06	368 7.67	1,503	1,240	3,617	1,489	4,963	12,812	
	COVID-19	13 1.86	1 0.20	135 10.38	28 4.00	33 2.06	210 4.38	328	154	579	249	590	1,900	
		1 0.25		23 2.88	7 1.75	10 1.00	41 1.41	31	12	258	54	174	529	
小児科定点（29定点）	咽頭結膜熱			4 0.50		3 0.30	7 0.24	37	23	267	2	84	413	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1 0.25	3 1.00	9 1.13		12 1.20	25 0.86	159	210	1,450	230	1,379	3,428	
	感染性胃腸炎	16 4.00	14 4.67	12 1.50	3 0.75	92 9.20	137 4.72	842	695	1,160	314	4,228	7,239	
	水痘			4 0.50		3 0.30	7 0.24	3	17	60	11	120	211	
	手足口病		1 0.33	11 1.38	1 0.25	6 0.60	19 0.66	45	184	760	123	1,056	2,168	
	伝染性紅斑							8	3	26	11	13	61	
	突発性発しん			4 0.50		2 0.20	6 0.21	7	26	119	27	128	307	
	ヘルパンギーナ		12 4.00	22 2.75		15 1.50	49 1.69	18	68	115	19	177	397	
	流行性耳下腺炎					1 0.10	1 0.03	3	1	5	4	10	23	
	眼科定点（7定点）	流行性角結膜炎	1 1.00	2 2.00	1 0.50	2 2.00		6 0.86	12	5	16	14		47
	基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎											2	2
		無菌性髄膜炎							2					2
		マイコプラズマ肺炎	1 1.00		1 1.00			2 0.40	10		4	5	7	26
		クラミジア肺炎										2		2
感染性胃腸炎（ロタウイルス）										2	1		3	
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）		1	1	1	3	6	1	1	2	1	4	9	
	COVID-19による入院患者	1				1	2	27	18	7	12	63	127	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2026年第36週（8/31～）の集計です。

インフルエンザ情報（富山県の型別患者報告状況）

このデータは、定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。

現在、下の表によると、A型が86.1%となっています。

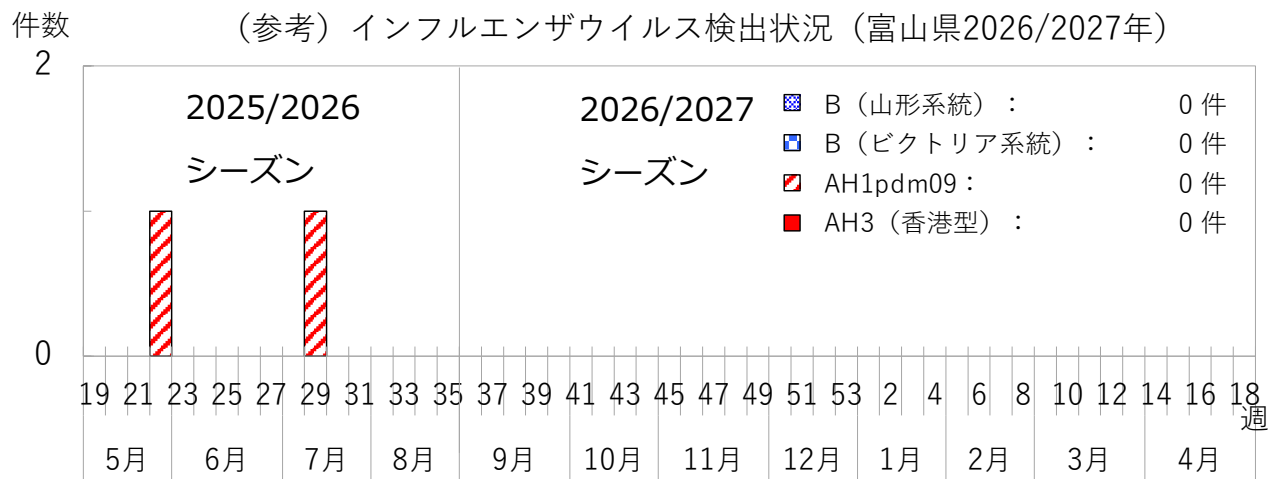
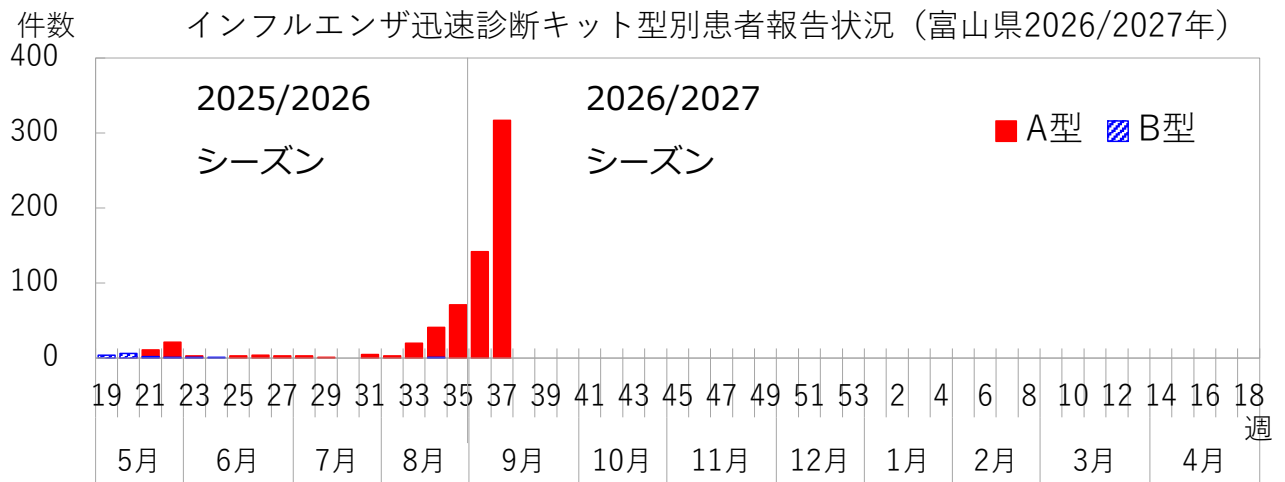
第37週（9/7～9/13）：富山県 7.67人/定点

（単位：件）

厚生センター・ 保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他※2	合計
		A型	B型		
新川	5 / 7	24	0	4	28
中部	4 / 5	7	0	2	9
高岡	11 / 13	116	0	26	142
砺波	6 / 7	26	0	2	28
富山市	13 / 16	144	0	17	161
富山県	39 / 48※1	317	0	51	368
富山県累計（2026年36週～）		459	0	69	528

※1 48の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が39か所あったことを示します。

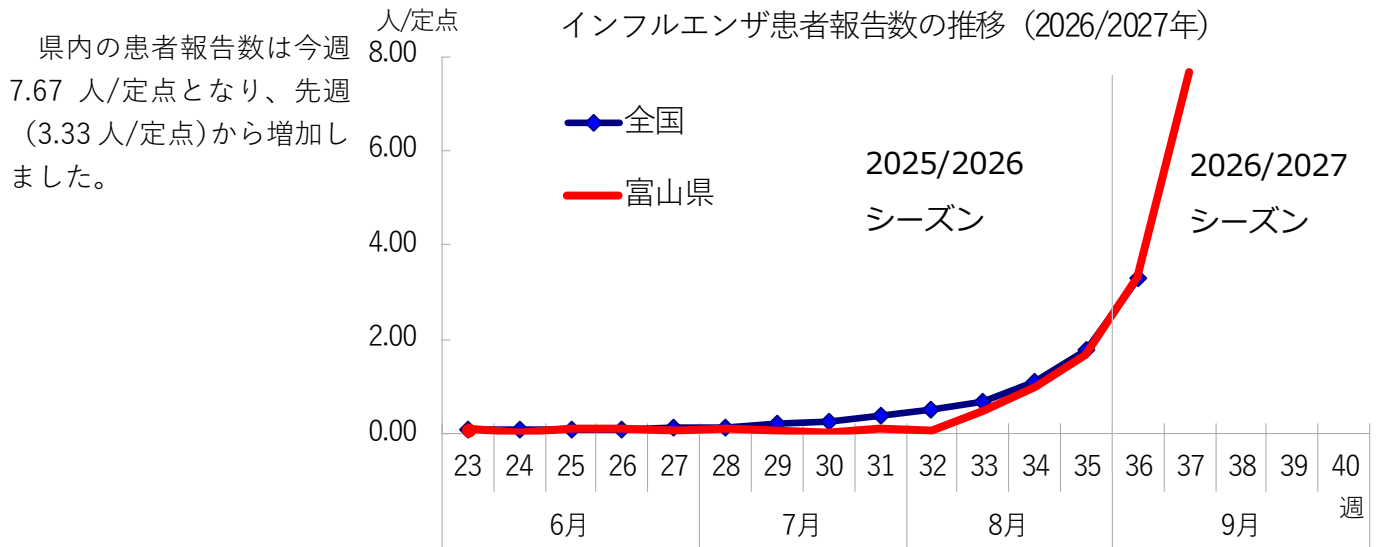
※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。



インフルエンザ情報（全国、富山県の患者報告状況）

● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況 第37週（9/7～9/13）

富山県 7.67 人/定点 [新川（4.00）、中部（1.80）、高岡（10.92）、砺波（4.00）、富山市（10.06）]

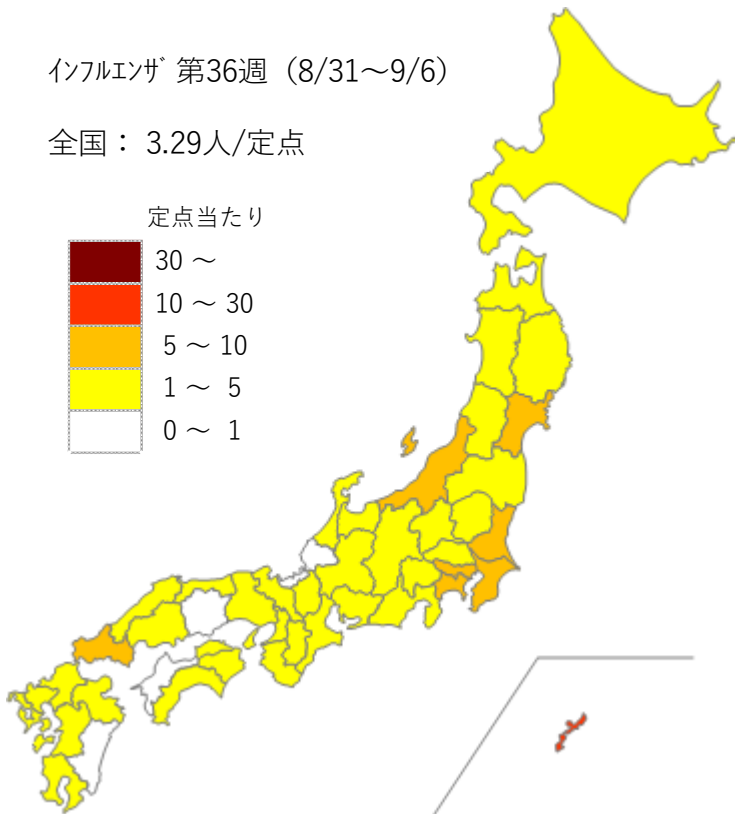
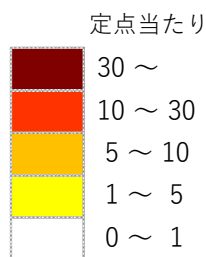


● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第36週（8/31～9/6）

全国患者報告数は、定点医療機関あたり 3.29 人となり、前週の 1.76 人より増加しました。43 都道府県で前週より増加しています。3 県で前週より減少しています。

インフルエンザ 第36週（8/31～9/6）

全国：3.29人/定点



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	1.82 ↑	滋賀県	1.64 ↑
青森県	2.77 ↓	京都府	3.59 ↑
岩手県	4.12 ↓	大阪府	1.38 ↑
宮城県	5.35 ↑	兵庫県	1.75 ↑
秋田県	2.56 ↑	奈良県	2.45 ↑
山形県	2.74 ↑	和歌山県	1.76 ↑
福島県	2.85 ↑	鳥取県	3.86 ↑
茨城県	5.68 ↑	島根県	2.20 ↑
栃木県	4.17 ↑	岡山県	0.42 ↑
群馬県	2.04 ↑	広島県	1.33 ↑
埼玉県	4.57 ↑	山口県	5.11 ↑
千葉県	5.49 ↑	徳島県	1.48 ↑
東京都	5.46 ↑	香川県	1.35 ↑
神奈川県	5.87 ↑	愛媛県	0.89 ↑
新潟県	6.13 ↑	高知県	1.70 ↑
富山県	3.33 ↑	福岡県	2.65 ↑
石川県	2.26 ↑	佐賀県	1.00 ↑
福井県	0.72 →	長崎県	2.12 ↑
山梨県	1.74 ↑	熊本県	1.03 ↑
長野県	2.66 ↑	大分県	1.33 ↑
岐阜県	1.71 ↑	宮崎県	0.86 ↓
静岡県	2.06 ↑	鹿児島県	4.35 ↑
愛知県	2.42 ↑	沖縄県	10.34 ↑
三重県	1.57 ↑	全国	3.29 ↑

